

[成果情報名] 水ワサビ二次増殖苗は親株への緩効性肥料による窒素総施用量は 900mg/株以上が適正である

[要 約] 秋季～翌年初夏の水ワサビ二次増殖苗生産では、二次増殖苗採取数は親株への緩効性肥料による窒素総施用量が 600mg/株で少なく、900～1500mg/株で多くなる。

[キーワード] 水ワサビ、二次増殖苗、窒素施用量、緩効性肥料

[担 当] 静岡農林技研・伊豆研セ・わさび生産技術科

[連絡先] 電話 0558-85-0047、電子メール agriwasabi@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 野菜・花き（野菜）

[分 類] 技術・普及

---

#### [背景・ねらい]

静岡県内の水ワサビ生産での定植苗には、土耕栽培した親株の分けつ茎を採取する二次増殖苗と、種子から培土で育苗する実生苗が併用されている。二次増殖苗は育苗作業が簡便であるが、施肥管理技術が確立しておらず、採取数が不安定である。

そこで、秋季～翌年初夏の親株への施肥時期と窒素施用量が、二次増殖苗採取数に及ぼす影響を調査し、適正な施肥量を明らかにする。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 秋季～翌年初夏の育苗体系における二次増殖苗の採取数は、11月下旬～2月下旬の親株育成期と2月下旬～6月下旬の採取期の親株への窒素施用量が影響する（表1）。
- 2 二次増殖苗の採取数は、液肥による親株への月当たり窒素施用量 250mg/株まででは、親株育成期、採取期のいずれも 100mg/株/月以下では少なく、150mg/株/月以上が適正である（表1）。
- 3 二次増殖苗の採取数は、緩効性肥料による親株への窒素総施用量 1500mg/株まででは、600mg/株では少なく、900mg/株以上が適正である（表2）。
- 4 親株への窒素施用量は、二次増殖苗のわさび田定植 1 か月後の活着率に影響しない（データ省略）。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 液肥、緩効性肥料は、育苗期間を通じて一定の窒素施用量となるよう分施する。
- 2 親株から発生した花茎は、順次摘除する。

[具体的データ]

表 1 液肥による窒素施用時期、施用量の異なる親株の二次増殖苗採取数

要因平均	窒素施用時期	窒素施用量 (mgN/株/月)	真妻No. 1 二次増殖苗採取数 (本/株)	
			真妻No. 1	正緑
要因平均	親株育成期 (11月下旬～2月下旬)	50	7.6 c <sup>2)</sup>	
		100	8.8 bc	
		150	9.9 ab	
		200	10.8 a	
		250	10.4 a	
	二次増殖苗採取期 (2月下旬～6月中旬)	50	7.9 c <sup>2)</sup>	
		100	9.0 bc	
		150	9.7 ab	
		200	10.0 ab	
		250	10.9 a	
有意性 <sup>1)</sup>	親株育成期施用量		**	
	二次増殖苗採取期施用量		**	
	交互作用		n. s.	

- 1) 分散分析により\*\*は1%、\*は5%で有意差あり、n. s. は有意差なし  
 2) 異符号間に有意差あり (t検定 (holm補正)、5%水準)

表 2 緩効性肥料の種類、窒素施用量の異なる親株の二次増殖苗採取数

要因平均	肥料種類	窒素総施用量 <sup>1)</sup> (mgN/株)	二次増殖苗採取数 (本/株) <sup>2)</sup>		
			真妻No. 1	正緑	
要因平均	エコロング413-100	600	5.2	4.8	
		900	9.8	7.2	
		1200	9.8	7.8	
		1500	9.0	9.8	
		IB化成S1号	600	5.6	5.4
	IB化成S1号	900	7.0	7.6	
		1200	8.6	8.2	
		1500	10.4	7.8	
		肥料種類	エコロング413	8.5	7.4
			IB化成S1号	7.9	7.3
要因平均	窒素施用量 (mgN/株/月)	600	5.4 b <sup>4)</sup>	5.1 b <sup>4)</sup>	
		900	8.4 a	7.4 a	
		1200	9.2 a	8.0 a	
		1500	9.7 a	8.8 a	
		有意性 <sup>3)</sup>	肥料種類 (A)	n. s.	n. s.
	窒素施用量 (B)	**	**		
	A × B	*	n. s.		

- 1) 11月下旬と2月下旬の2回に分施  
 2) 2月22日～6月13日に10～21日間隔で9回採取  
 3) 分散分析により\*\*は1%、\*は5%で有意差あり、n. s. は有意差なし  
 4) 異符号間に有意差あり (t検定 (holm補正) 5%水準)

[その他]

研究課題名：ワサビの高温期育苗安定化技術と効率的育苗管理体系の確立  
 予算区分：県単  
 研究期間：2022～2023年度  
 研究担当者：久松 奨、片井祐介、小高宏樹